

都市再生整備計画(第4回変更)

まつしま ひがしかわら
松島・東河原地区

ながの みのわまち
長野県 箕輪町

平成22年3月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	長野県	市町村名	箕輪町	地区名	松島・東河原地区	面積	315.15 ha
計画期間	平成 18 年度 ~ 平成 22 年度	交付期間	平成 18 年度 ~ 平成 22 年度				

目標

大目標:町の中心部である松島地区に求心性のあるアクセスしやすく快適で住みよい、防災拠点、交流拠点の形成をめざす。

目標1:「災害に強いまちづくり」、「消防・救急・救助体制の強化」

目標2:「住民自治の確立と協働の推進」

目標3:「人にやさしい快適な生活道路の整備」

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

- 箕輪町は、長野県のほぼ中央、上伊那郡の北部に位置し、河岸段丘の典型的な地勢を示し、東西に長い地形で面積は86.12km²である。
- 中央平坦地を天竜川が貫流し、天竜川西側は広い緩傾斜の扇状地が形成され、台地になって中央アルプスへと続いている。
- 近年企業誘致により、産業構造は工業団地が整備され、工業主体の町となっている。
- 現在の人口は26,359人(平成17年4月1日)で、年々人口が増加している。しかし、少子高齢化や産業の空洞化等社会経済情勢の急激な変化により地域から若者が減り、高齢化が進んでいる。
- 一方で、新たに転入する住民が地域社会に参加しない傾向にあり、地域コミュニティが崩れつつある。
- 町の中核である中心市街地を構成する松島地区は、箕輪町において住宅需要が多い地域で、住宅が増加している。
- 箕輪町は、東海地震の地震対策強化指定地域に指定されているとともに、伊那谷断層帯の直下型地震が起きる可能性も指摘されている。
- 現在、町では住民と行政の協働の指針づくりを進めており、景観形成活動、自主防災組織の育成など住民活動の仕組みづくりを進め、地域コミュニティの活性化を図る。
- 国道153号線バイパスの4車線化に伴い、バイパス周辺の商業地、住宅地が拡大し、バイパスに近い生活道路の通行量が増加している。
- 町中心部の交通拠点としての「JR伊那松島駅」は、近隣の学校へ通学する高校生を中心に朝夕の乗降客が増加している。

課題

- 本町は、社会教育文化ゾーン公共施設、教育施設、文化施設が点在しているが、一体的な整備がされていないため、町民の地域交流・コミュニティ・防災機能が弱く、地域住民活動を進める中で、既存の文化センターを中心とした地域交流施設の整備が緊急の課題となっている。
- 現在の消防組織(消防署・消防団)が消火・救急活動等の全てを行うには限界があり、防災力の強化と併せて自主防災組織の結成など住民一人ひとりが出来ることを広めていく必要がある。
- 現在ある公共施設の多くが、昭和56年以前に建設され、現在の耐震基準に不適合である

将来ビジョン(中長期)

- 箕輪町第4次振興計画において「人、地域が輝き、創造と活力あふれるまち箕輪」を将来都市像としている。
- 第4次振興計画のコンセプトは、①住民自治の確立と協働のまちづくり ②災害に強いまちづくり ③創造と活力に満ちた産業を育てるまちづくり をめざすものである。
- 安全安心のまちづくり、協働のまちづくりをキーワードに町民のための社会教育文化ゾーンの再整備を行い、人々が集まる交流拠点をつくることにより、活力あるまちづくりを進める。
- 地域の防災力強化のために自主防災組織の組織確立を推進し、さらに災害に強い公共施設の整備や防災資機材の備蓄を進め、地域一体となった防災・減災体制の確立を図る。
- より多くの住民が積極的にコミュニティ活動やまちづくりに参加し、協働のまちづくりを進める。
- 住宅地の拡大に伴う生活道路の拡幅を行い、安全安心でより快適な道路整備を進める。
- 子育て支援をきめ細かく推進するために子育て支援ネットワークを整備し、子育て家庭がよりどころとなる場所を増やす。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	目標値	
				基準年度	目標年度	
自主防災組織数	団体	地域住民が自主的に連帯して防災活動を行う任意団体	各地域における災害時の体制づくり	0	15以上	H22
普通救命講習会受講者数	人	普通救命講習会を受講した人数	救命活動の講習会実施による初動体制強化	1,472	2,672	H22
NPO団体数	団体	町内で活動するNPO団体数	住民活動・地域活動の活性化	3	10	H22
避難路・避難所の整備率の増加	人	松島地区避難者収容人数の増加	避難所への避難路の整備・災害時の避難者収容人数の増加	450	600	H22
生活道路利便性への満足度		住民満足度調査による満足度(6点満点)	生活道路の整備・駐輪場の整備	3.15	3.5	H22

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>・地域交流センター、箕輪消防署の整備による「災害に強いまちづくり」、「消防・救急・救助体制の強化」 社会教育文化ゾーンには、町役場、避難地（箕輪中学校、箕輪中部小学校）、避難場所（箕輪中学校、箕輪中部小学校、町文化センター、松島保育園、松島コミュニティセンター）が集中しているため、今回整備する地域交流センターは、地域防災計画の避難場所として位置づけ、同時に整備する消防署、交流広場とあわせ町中心部の災害対策の核として活用するとともに、提案事業で実施する防災コミュニティー推進事業として、自主防災組織の育成、普通救命講習等の救急・救助訓練事業、防災マップの作成、コミュニティー防災教育等の防災関連事業を展開する。 また、避難施設を含めた公共施設の耐震補強工事を進め、地域住民が安心して生活、避難できる空間を確保する。</p>	<p>高次都市施設（地域交流センター） 地域生活基盤施設（交流広場） 地域創造支援事業（箕輪消防署）</p>
<p>・地域交流センター、交流広場の整備による「住民自治の確立と協働の推進」 地域交流センター及び交流広場を既存の町文化センターと一体的に整備し、地域内の交流を活性化するとともに、住民自治の確立と協働の推進を図る。 また、交流センター内に子どもからお年寄りまでが集う多目的交流ルームを整備し、交流を通じて次世代の育成を図る。</p>	<p>高次都市施設（地域交流センター） 地域生活基盤施設（交流広場） 高質空間形成施設（障害者支援スロープ）</p>
<p>・町のシンボル軸町道6号線ならびに国道153号線バイパスの側道等の生活道路の改良・整備による「人にやさしい快適な生活道路の整備」 教育文化ゾーンと国道153号線とを結ぶとともに、国道バイパスの側道として重要な生活道路である町道6号線の整備を行い、アクセスしやすい快適に暮らせるまちづくりをめざす。また、小中学生の通学路への歩道部確保や宅幼老所への道路幅確保など安心安全のまちづくりをめざす。 さらに、工業団地造成地周辺の道路整備を行い、創造と活力あふれるまちづくりをめざす。</p>	<p>道路（町道6号線、町道357号線、町道900号線、町道760号線、町道6号・359号・371号線）</p>
<p>その他</p> <p>□提案事業</p> <p>【地域創造支援事業】箕輪消防署の整備 防災機能の強化をめざし、人口増により機能の充実が求められている箕輪消防署を改築する。</p> <p>【事業活用調査】協働のまちづくり研究事業 住民参加によるまちづくりを推進するための施策を検討し、展開するとともに、住民交流や住民参加による協働のまちづくりについて地域交流センターや交流広場が果たす役割を継続的に調査する。また、道路河川のアダプトシステムを推進し、本交付金にて整備した道路について、協働のまちづくりで住民団体による管理を目指す。</p> <p>【まちづくり活動推進事業】防災コミュニティー推進事業 箕輪消防署と地域交流センターを一体的に整備することで、地域交流センターで下記事業を行い、防災コミュニティーの推進を図る。 ・普通救命講習会等の救急・救助訓練事業 ・防災マップの作成等支援事業 ・コミュニティー防災教育、訓練事業 ・自主防災組織育成事業 また、安心安全のまちづくりに向けて、防災ボランティアや防犯ボランティアの育成を行い、道路整備とともに効果的な事業の推進を図る。</p> <p>【事業活用調査】事後評価の実施 まちづくり交付金を活用した当地区の事業効果を検証するため、地域住民や外部専門家を交えて、事後評価を実施する。</p> <p>○関連事業</p> <p>【災害に強いまちづくり～公共施設の耐震化～】 ・箕輪中部小学校耐震補強事業 ・公共施設耐震補強事業</p> <p>【消防・救急・救助体制の強化】 ・緊急消防援助隊施設整備事業</p> <p>●その他</p> <p>【施設の活用・維持管理について】 地域交流センターの維持管理は、コミュニティの活性化という観点から住民団体へ委託する方針であり、今後他の公共施設の維持管理へ活かせる体制づくりを行う。 また、地域交流センター内の多目的交流ルームでは、子どもからお年寄りまでが集える空間づくりを行う。</p> <p>【事業の進捗状況について】 事業の進捗状況は、広報紙「広報みのわ」やケーブルテレビの町情報番組「もみじチャンネル」にて広報します。 事後評価については、「協働のまちづくり事業」における調査や、平成16・17年度に行った住民満足度調査結果と比較し、事業効果を検証します。</p>	

